



西覚寺だより

第14号

報恩講法要のご案内

日にち 十一月二十八日(日)

● 午前の部 午前十時半～正午頃
内容 お勤め(正信偈六首引き)
・御伝鈔拝読(下巻五段)・ご法話

※感染症対策のため「お斎」はありません。

● 午後の部 午後一時半～午後三時頃(休憩あり)
内容 お勤め(正信念仏偈作法第二種)
・御伝鈔拝読(下巻五段)・ご法話

● 布教使 植田 豊 師(和歌山県・錬者)

植田先生は、任職や連れ合いが中央仏教学院に通っているころにお世話になった方です。やさしくやわらかい語り口で、ご法話をしてくださいます。

● 持ち物 不織布マスク着用の上、御参拝下さい

お念珠、門徒式章(お持ちの方)、御仏前(受付にお渡し下さい)

☆ 報恩講にお参り下さった皆様に、本願寺発行の「2022年法語カレンダー」をお配りします。

引き続き、感染症対策を講じて勤修致します。換気もしますので、みなさま必ず暖かい服を着て御参拝下さい。

2022年 年間法要予定

○除夜の鐘

2021年12月31日(金) 午後11時半～
西覚寺にある小ぶりの鐘を叩きます。どなたでもどうぞ。

○元旦会

2022年1月1日(土) 午前0時半～・午後2時～
新年はじめの正信偈のお勤めをご一緒にいかがですか？

○春季彼岸会

3月21日(祝・月) 午後1時半～
落語と法話の会。落語は任職の友人。演目は「寿限無」の予定

○永代経法要

4月25日(月) 午前10時半～・午後1時半～
法話 小山興圓 師(安城市・真宗大谷派 本證寺任職)

○花まつり(お釈迦様のお誕生をお祝いしましょう)

5月28日(土) 午前10時～午後4時頃
お子様・お孫様連れでお参り下さい。

○初参式並びに小学校入学祝いの会

6月5日(日) 午後2時～
お子様・お孫様が生まれた、小学校に入学した。その節目にご家族一緒に阿弥陀さまにお参りをさせて頂きましょう。

○孟蘭盆会・物故者追悼法要

7月15日(金) 午前10時半～・午後1時半～
法話 竹本崇嗣 師(刈谷布教所・本願寺派布教使)
※午後の物故者追悼法要は、2021年6月以降に御往生された方を対象に勤まります。ご家族の方はどうぞお参り下さい。

○秋季彼岸会

9月23日(金・祝) 午前10時半～・午後1時半～
法話 三井求 (西覚寺任職)

○報恩講法要

11月27日(日) 午前10時半～・午後1時半～
法話 佐々木隆晃 師(相愛大学准教授)

【コラム】（これでおしまい）

善人が救われるのなら、
悪人が救われるのは言うまでもない



承前、「歎異抄」というお書物の「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや。」（意訳）「善人でさえも阿弥陀さまのお浄土へ生まれさせてもらうのだから、まして悪人はなおさらのことである。」

阿弥陀様のお救いの肝要は、「大切なことはただひとつ、私にすべてを任せなさい」という阿弥陀様のお心を、「お任せします」と受け止め、阿弥陀様のおはたらきに身を委ねお任せすることです。

しかし、これは裏返せば、今まで一生懸命修行を積んできた、いわゆる善人の方々にとっては、「あなたが仏に成るためにしてきた行いをすべて捨てなさい。」と言われてしまうようなものです。それはなかなか「はい、そうですか」と受け入れられるものではありません。一方で、そういう修行をしてこれなかったもの、修行しても成果も見出すことができなかったものにとっては、この阿弥陀さまのお言葉は、ありがたく、すんなり受け入れやすいものです。

前号のあるクラスの生徒と先生の例で申しますと、いつもテストで平均して90点とれるが100点とはれない生徒、いつもテストでは平均して30点とる生徒がいたとします。しかし、先生としてはすべての生徒に100点をとってもらわなければならない。そこで先生は、「次のテストでは必ず100点とれるようにしますから、今までのあなたの勉強方法はすべて捨てて、私の言うように勉強しなさい。」とそれぞれの生徒に言ったとしたらどうでしょう。

勉強しても成績が上がらない、もしくはそもそも勉強していかない生徒は、「そらありがたい。」と、その先生の提案を受け入れやすいのではないのでしょうか。もしかしたら、「テストなんてどうでもいいや」と、その先生のありがたい提案を無視する生徒もいるかもしれません。無視したら、やはり100点とはれません。一方で、成績優秀な生徒はといえば、「今までのやり方でも100点まであと一歩なのだから、あえて今までのやり方を捨てることもない。」とか、「今まで自分の力で優秀な成績をとってきたのだから、他人の力など借りる必要もない」と、先生の提案を突っぱねてしまいかもかもしれません。

これが、「善人が救われるのなら、悪人が救われるのは言うまでもない」という歎異抄の文章の肝です。言うまでもなく、成績優秀な生徒が「善人」です。成績の悪い生徒が「悪人」です。自らの力で修行に励んできた善人は、阿弥陀様のお心を受け入れ

難く、そうでない悪人は受け入れ易い。阿弥陀様のお救いの肝要は、自力に励むことではなく、阿弥陀様のお心にこの身を委ねることです。阿弥陀様のお心をなかなかに受け入れることができない善人でさえ救われていく。まして、悪人が救われるのは言うまでもない。』ということになります。

これまでの話をまとめると、歎異抄のこのお言葉の善人・悪人とは、修行を積み自らの力で自らの心を浄らかにできるものを善人、そうでないものを悪人。

その悪人を救いのまさしき目当て（正機）とされたのが阿弥陀様でした。「すべて私に任せなさい」という阿弥陀様のお心にこの身を委ねることが肝要なのです。

しかし、今まで自力で修行に励んできた善人にとっては、「今までのすべてを捨てる」に等しい阿弥陀様のこのお言葉は受け入れ難く、阿弥陀様のお心に背きやすい一方で、そもそも捨てるものの無い悪人は受け入れ易い、阿弥陀様のお心に適いやすい。

だからこそ、「そんな善人でさえ、阿弥陀様のお心に触れ、今までの修行を投げ捨て、阿弥陀様にすべてを委ねるならば救われるのですから、悪人が救われるのは言うまでもない」と仰られたのです。

さて、大事なことは、今までの話の中で、「私」は誰にあてはまるのか、です。仏教は「私」抜きに聞くものではありません。少なくとも、先の例の中で登場した、「テストなんてどうでもいい」と先生の提案を無視する生徒にはならないようにしたいものです。

◆ 住職の一言コーナー ◆

ご自宅のお仏壇を片付ける（処分）する際には、「今までお世話になりました。」という主旨で、「仏壇御礼御礼」をお勤めするのが慣例です。西本願寺では「しゅうぬき」という言い方はしません。ネットなどで業者さんを調べると、遺品整理や家具処分と一緒に、「お仏壇の片付け」をしてくれる業者さんがあります。そういった業者さんにお願いとすると、その業者さんお付きの僧侶が、お参りをしてくるそうです。ただ、その僧侶は、本当に阿弥陀様に帰依し、南無阿弥陀仏に生きる僧侶なのでしょう。特に、お仏壇の中身で、「位牌だけは手元に置いておきましょう。」と、御本尊をないがしろにする人は、浄土真宗の教えを理解しない、別の宗教の僧侶です。今まで色々な方が大切に手を合わせてきたお仏壇です。知らない僧侶に任せずに、必ず「私に」お参りをさせてください。お仏壇を処分されるなら、その最後なりにお伝えしなければいけないことがあるのです。処分について反対するとかそういうことではないので、どうかお願い致します。



浄土真宗本願寺派
西覚寺

安城市朝日町12・8

☎ 0566・76・3594

http://saikakuji.sakura.ne.jp/wp/